

シリーズ

編集部座談会 こんな話&あんな話

熱中症対策で建設現場や電気設備工場の現場にも大変化到来!? 半袖・半ズボンだっていいのでは!? 目からウロコの新ユニ観①

【出席者=本紙編集部一同】

☆清涼!! ハーフパンツの夏のユニフォーム

司会者 9月に入ってから1日、2日と涼しい日が続いているけど、夏がこのまま終わるとは思えないよな。毎週言っているけど、現場で作業する人、外回りをする人は大変だ。

記者A 温暖化の影響で地球の夏は年々、暑さを増していますからね。今年は6月末に、カナダでなんと摂氏50度近くまで気温が上がったそうです。

記者C 正確には49.5度だったそうですけど、49度も50度も、体感的にはきっと変わらないですよ。ただ、ただ死にそうに暑いということで(笑)。実際、6月末の時点のニュースでは、バンクーバー地域だけで、猛暑での死者が69人とか言ってましたけど、その後、どうなったんでしょうか。

記者B カナダというと涼しい夏のイメージがあるけど、真冬には厳寒になるカナダの地域でも、今年の夏は40度を軒並み超えたというから半端じゃない。

記者D ちょうどその頃、日本では記録的な大雨が降っていて、全国各地の河川が氾濫するとか、しそうだとかいうニュースが流れていましたが、カナダでは日本の大雨が羨ましいなどという声も聞かれたそうです。大雨に見舞われた当事者としては、それは話が逆だろうということになりそうですが、同じ時期の地球でこうも極端に違う大自然の脅威があると、ほんと、地球はどうなっちゃうんだろうと思います。

司会者 まあな。それはそれとして、日本の夏も凄いくらいになっていて、それを端的に感じる風景として、今年の夏は街なかで普通の人がファン付きのブルゾンを着ていたりしていた(笑)。

だけど、あの気持ちはなんとなく分かるね。一般的には半袖のほうが涼しいんじゃないかと思われるかもしれないけど、ファン付きブルゾンを着て歩いてい

ると、半袖シャツを着て歩いているときより快適らしいね。そんな話を聞いたよ。

記者D それはそうなんじゃないですか。ギリギリした陽光に半袖の素肌をさらすより、密閉して中を風通しよくしたほうが、涼しいのでは?

記者B それはいえるかもしれませんがね。そういう観点から、今年の夏に話題になったのは、矢作建設工業のハーフパンツ・ユニフォームの採用じゃないですか? 本誌今週号の「業界ザッピング欄」で、私もちょうど紹介したばかりです。

司会者 そうそう。矢作建設工業はその件で、マスコミ向けにニュースリリースしてたよな、確か。

記者B はい。ここにその資料があります。今年7月7日付けのリリースで、タイトルは「熱中症リスクを軽減するユニフォームの導入について～夏場の労働環境の改善に向けた取り組み～」となっています。

要は外での作業は年々、酷暑で困難になりつつあるから、熱中症対策のためにハーフパンツとインナーパンツを組み合わせた新ユニフォームを作ったという趣旨です。併せて、ファン付きジャケット(空調服)も袖を長さも半袖にも調整できるような機能を盛り込んだということでした。

ただ、建設現場では安全性の確保が第一なので、ケースバイケースで、ハーフパンツにしたり、これまでと同様のスタイルにしたり、個人個人が選択していけばいいと。そして最後に「引き続き、当社は工事現場の安全確保と、社員一人ひとりが生き生きと働くことができる労働環境整備に取り組んでまいります」という言葉で結ばれています。

司会者 最後のその文言がいいよね。安全確保はもちろん大前提だけど、働く社員が自らの働き方をある程度チョイスできて、生き生きとしていられなければ

*本文、後略